

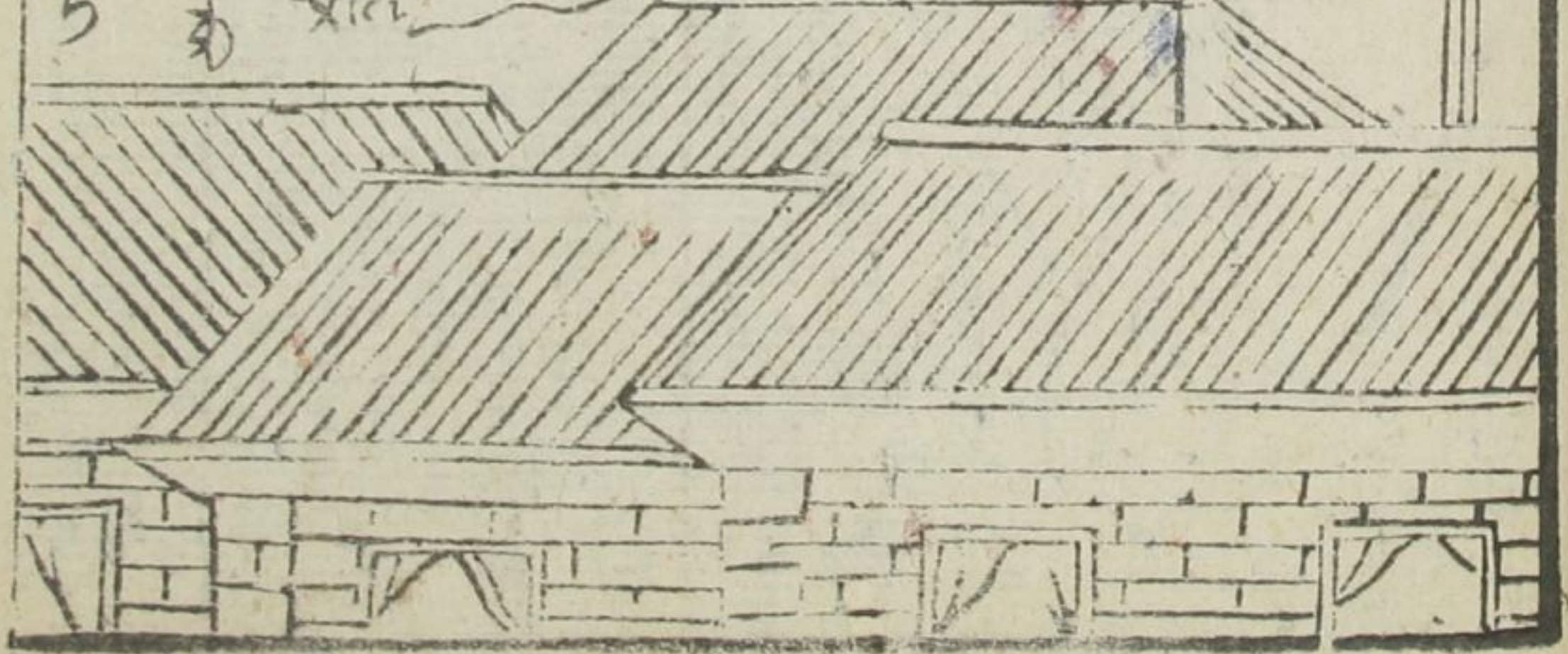


下巻



A547
2

斯くて五名の人々暴徒
 の爲めに臣國に流るる小舟を
 受あつてもおのれは多勢の
 うつふ者もあつて携へたれハ五
 氏ハ幸でかたす可けんや幸ももを物と迹
 追て兵衆あつて道れ入り頻りに援を乞
 ひたれどもあつたあるるもや誰あつて
 てあつても者のをせられ柄もや暴徒
 ハ押入り天庭に伴の兵衆あつたを
 後よりいしてあつたみ原跡を投あつと雨の如
 くありなきハ五氏の邊にのほり再幸する
 道れ出しが群る暴徒は遮り路あり



明

<48-8399>

死を更
したる
五名
の
を
と覚悟
を究め
瓦礫の中
を掘りつ枝
つぬくを場



血氣盛の
人々
を
春を携
はる

◎この近き
中々の運元意
感ハ別とす
殺りハ
沼の届ずして
空しくあらむと
吾我居居地
ハ且の
情々
情々
報一此返報を



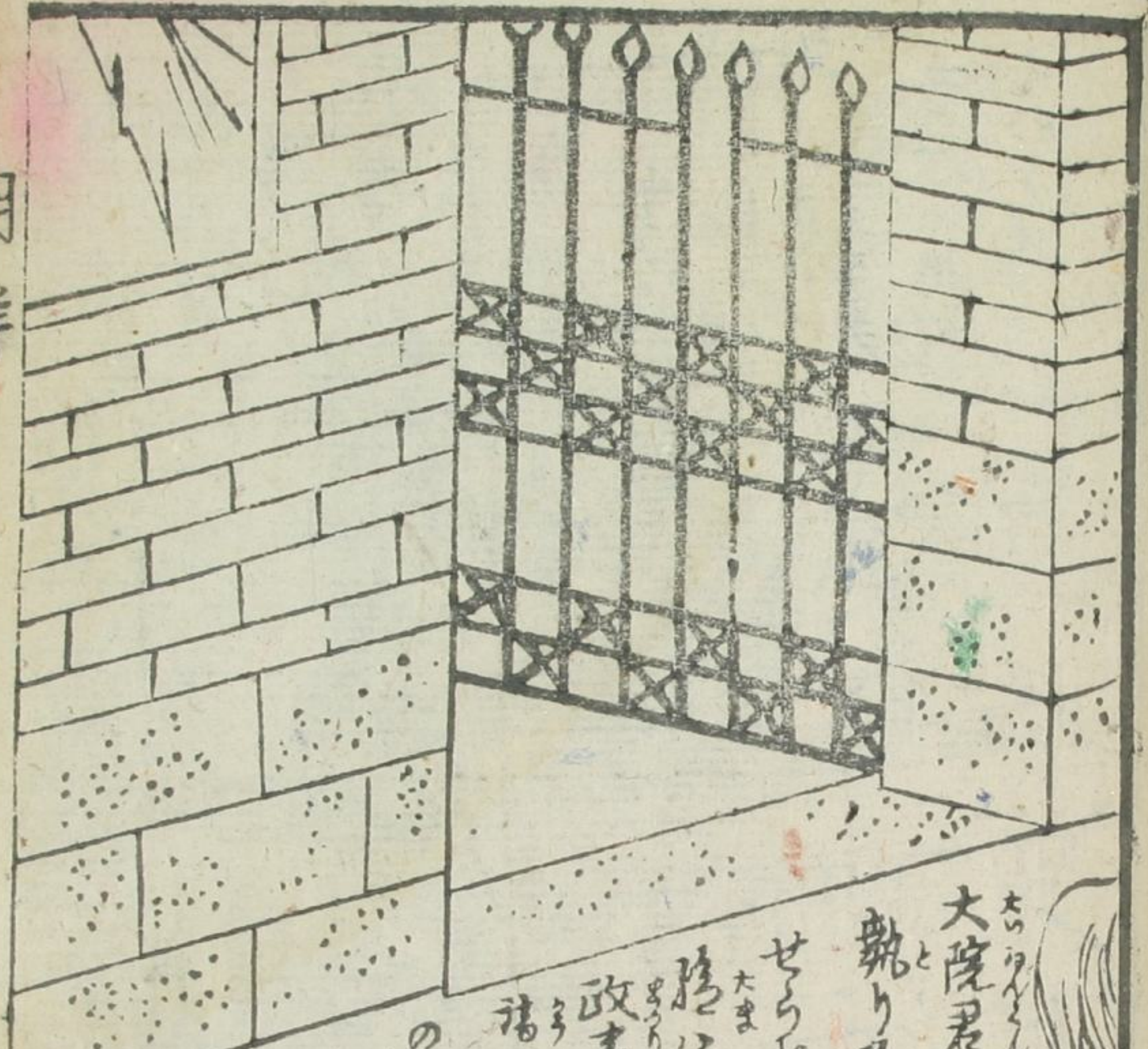
出んとする
集り
こよ
て中
を
れ
海
よ
民
ら



義重に横合れしと聞つるが 日朝解政府に於ては李載元
 子後の返報ハ如何ある所ニ 師聖全輔鉉尹雄烈杯と稱する人
 相成りしや勇てすきも 々ハ故進家あるも國王の
 父李曼 應大院君

今を距る事十九年
 主の位ニ
 早き後ハ
 以てよ一々

今この
 大素
 侍
 かけ
 日



大院君の代つて系族の政事
 執り務むる王の格威を
 せられし自ら政事を執り
 務むるとせられし大院君ハ
 政事を選ばしむるより同
 福閣謙福の二氏ハ王の宮
 の一族ありバ自と威權を振
 りしより 世政の條を封
 蒞し終る大院君を退け
 たるにぞ大院君の遺
 恨ハ高水やらず

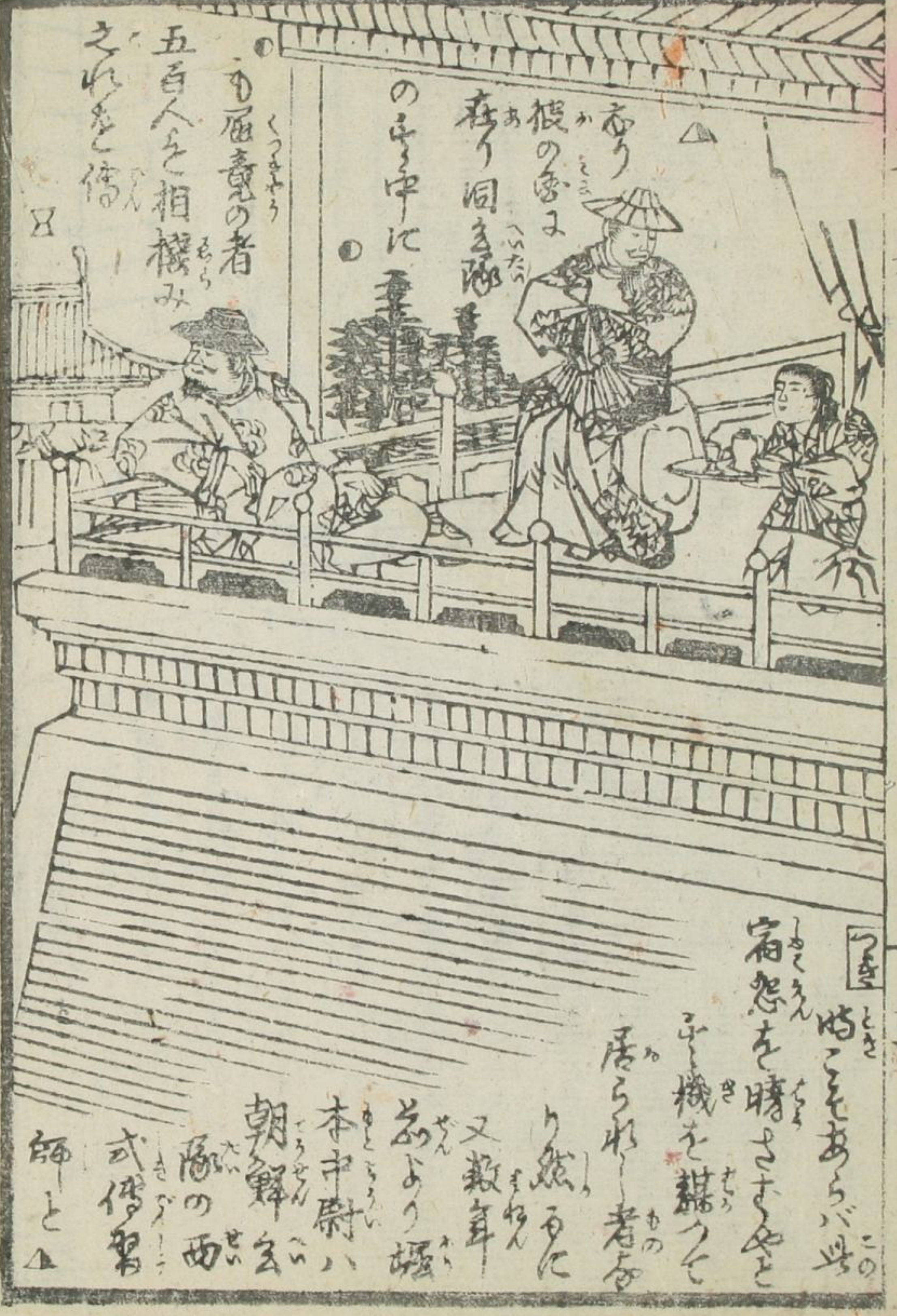


又 書と
 無律ありしめ
 乃うが常飯
 主と八自
 つと娘
 味ある
 在るひて
 回式隊
 のますらハ
 大ひふ不
 平を

懐き
 心平
 穂あら
 ホされ
 バる中の
 人をも

自と
 易きもの
 ありき
 味を浮
 洗を

口唱
 る者のみありと
 蘇るに本年七月
 主とありは備の
 主ハ李是燕の
 内令あて
 者もや
 不平の
 有様



も 願賣の者
 五百人を相様み
 之れをと傳

あり
 彼の家
 存る回主隊
 の中々に

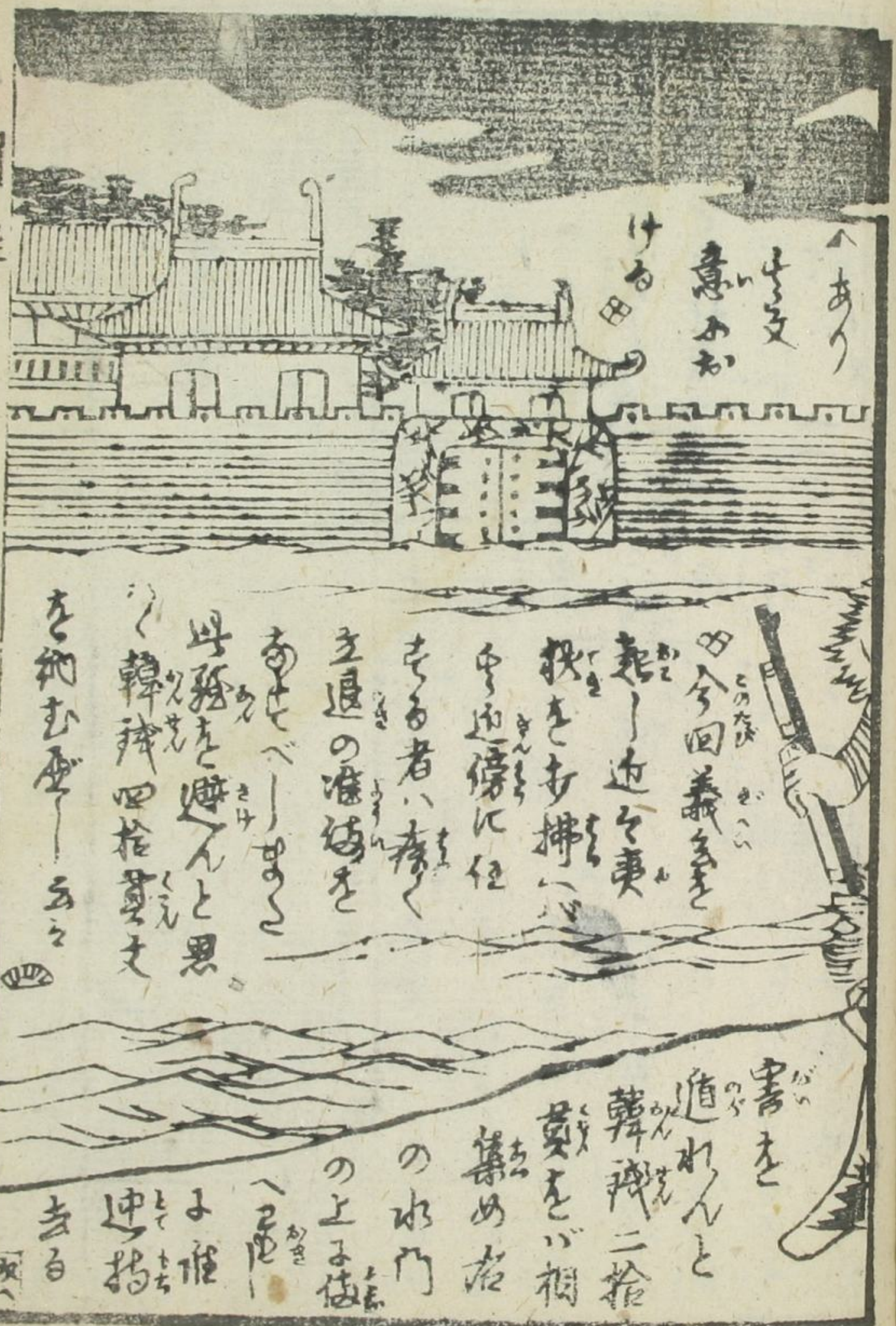
時
 宿怨を晴さむと
 子機を耕つて
 居られ者
 り然るに
 又数年
 志より極
 本中尉ハ
 朝鮮
 西
 式傳習
 師と

朝真

下三



あり
 一が同月
 七日の以
 とか
 東大
 門の外
 傷
 水門
 張札
 をた
 る者
 あり
 とは強れを
 なる
 よう
 市民は大
 ひま
 おどろ
 水を
 を
 居
 たり
 がその
 災



あり
 意
 け
 今回義
 近を
 扶
 中
 者
 立退の
 あり
 母
 韓
 を
 約
 書
 道
 韓
 集
 の
 の
 上
 子
 仲
 去

者のあら
 民ハ全ク
 残の不足
 あるを以て
 指すらぬ
 者と思ひし
 又ハ二拾貫
 を増し七五
 に教目を強ね兵
 指去らぬハ今ハ如
 何ある災害に



たる者
 が全ク
 在人
 杯の所
 業あら
 んと
 取捨
 後ハ三時とも

①
 りと之れ
 後ハ人
 平糶あら
 暴徒の
 市民に
 種々の
 後さし
 信事疑
 りと之
 後三時

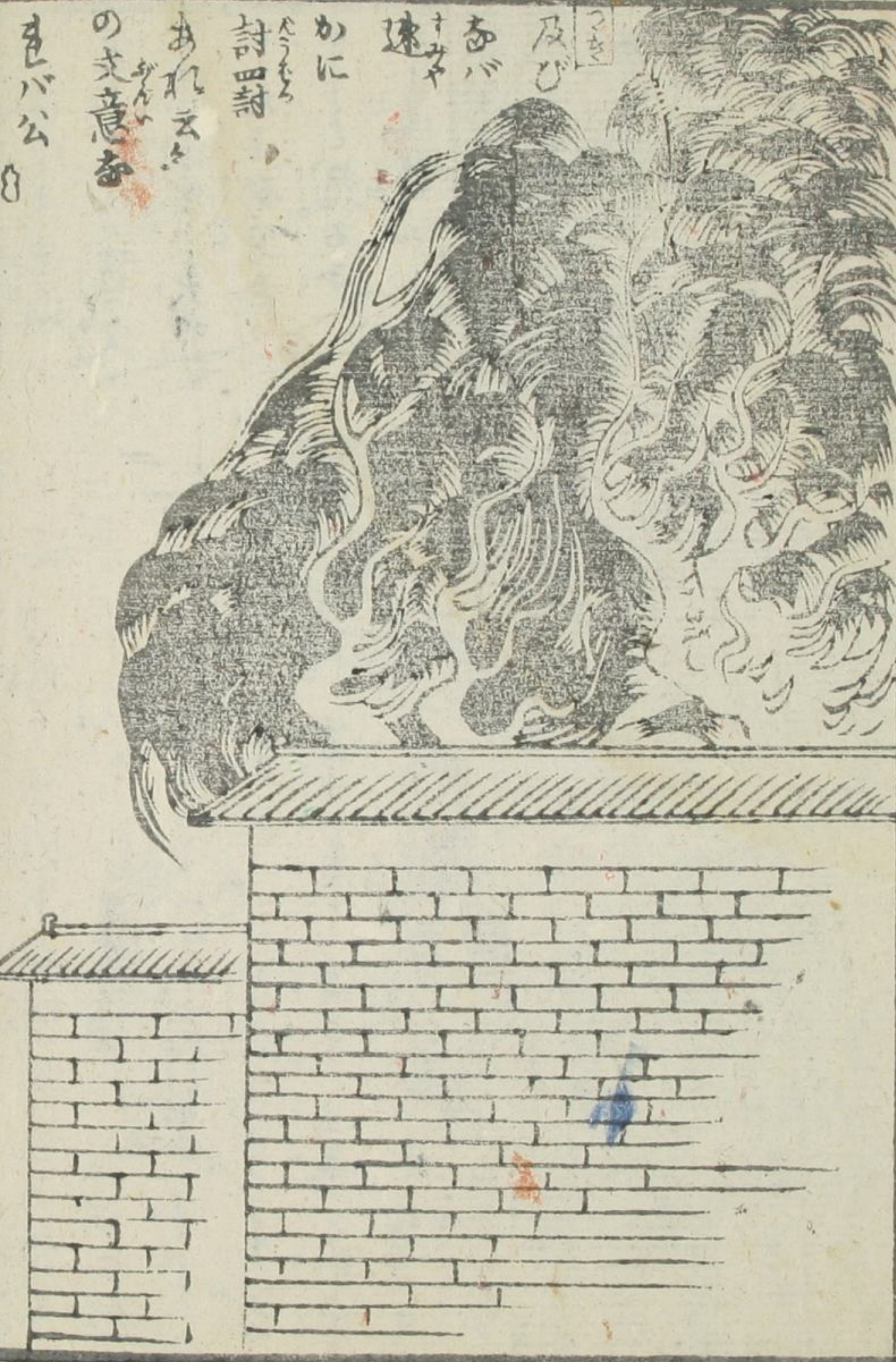
運とも
 ナー四拾貫文
 の残ハ取除
 くえ又死
 せしと然
 中後我公
 使館の重
 門へ又何
 者不伴ん
 如き強
 拉を



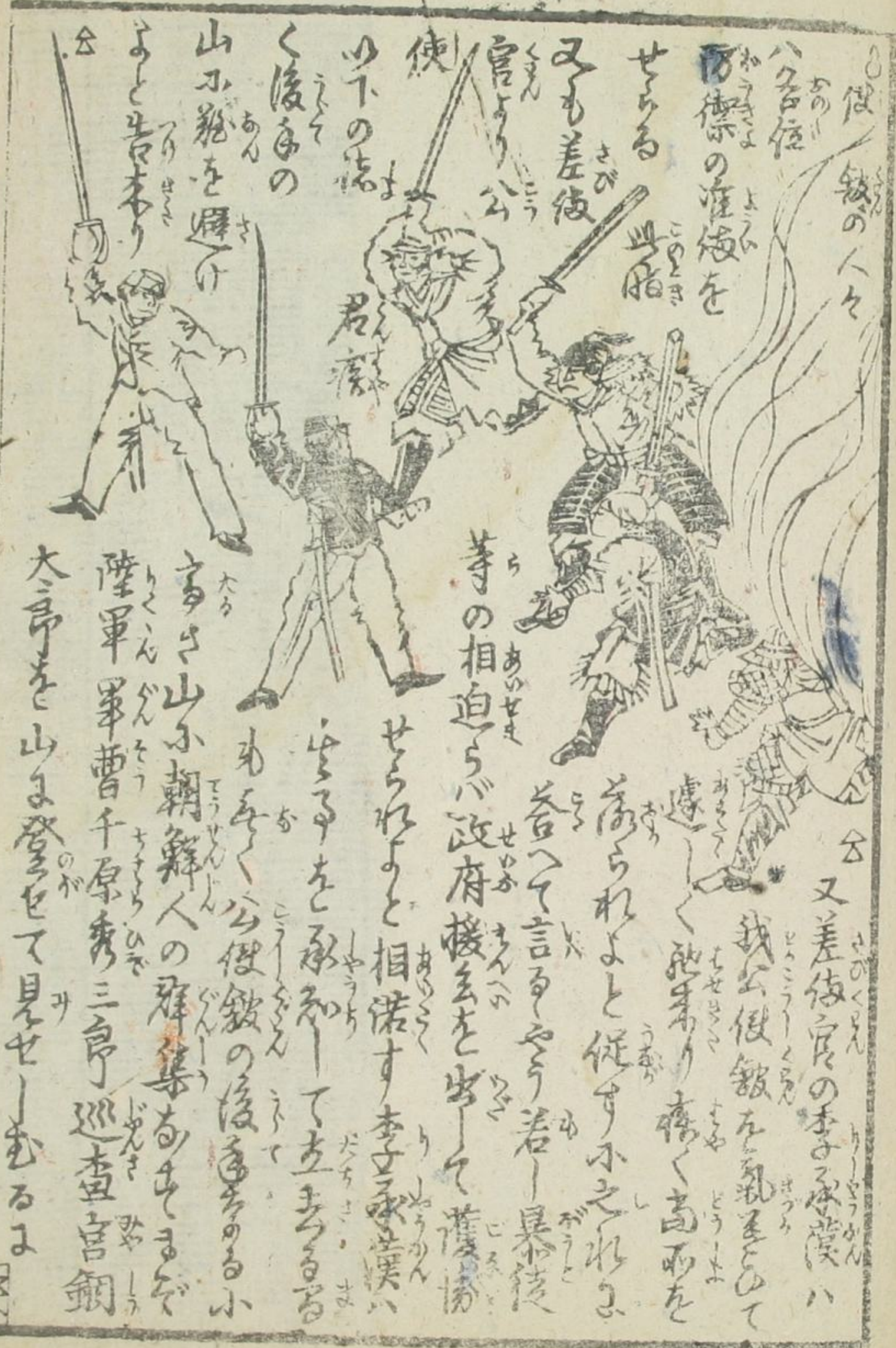
思し下都
 我公
 使館
 一書を
 呈す
 与今
 中あり又
 日本公
 との意
 ありは

②
 何
 暴
 争
 又
 公
 意
 あり

月
 洋

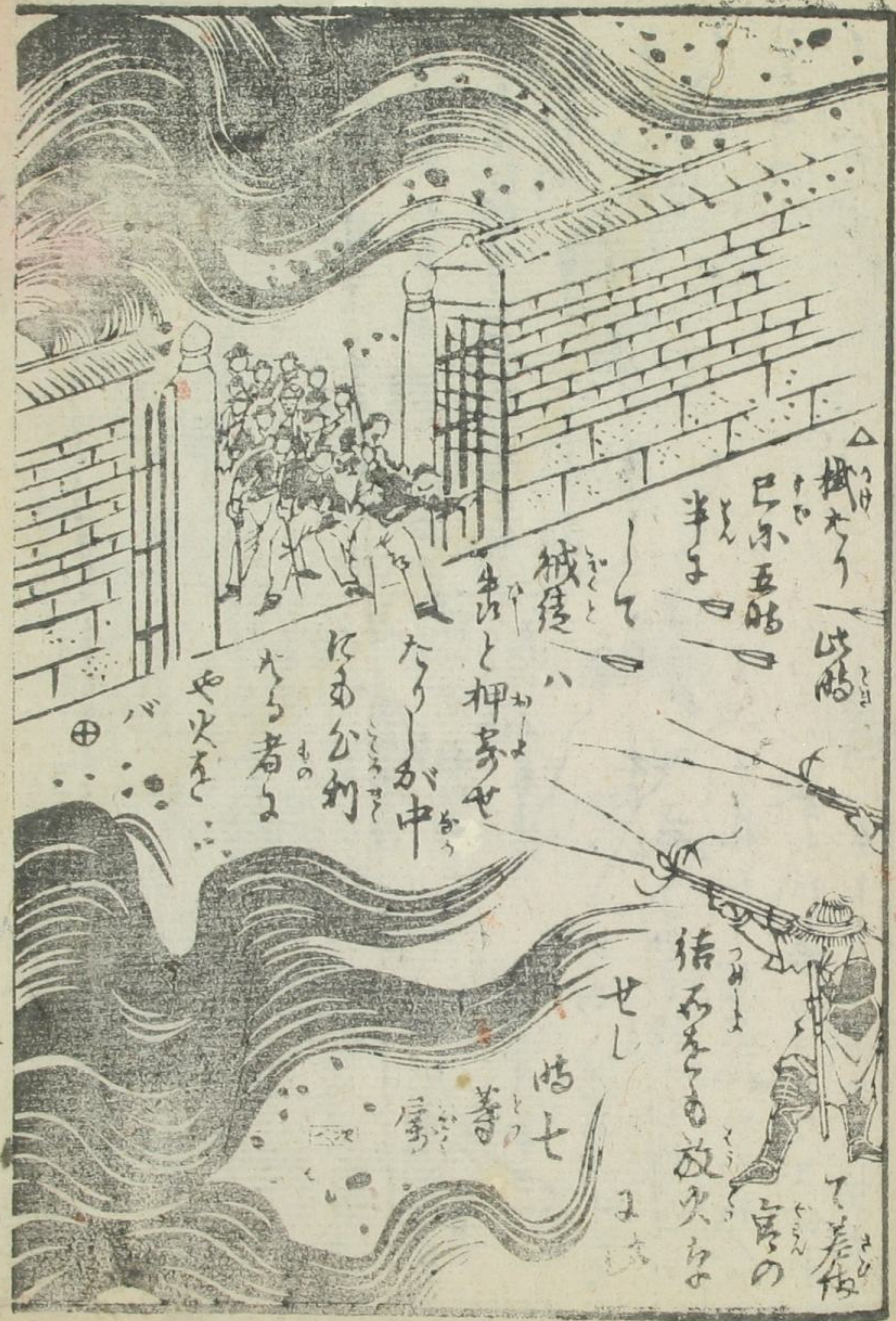


及び
速
かに
討討
あれ云々
の文意を
色バ公



假
ハ各位
徳の准後を
せらる
又も差後
官より公
使
下の信
く後家の
山小翁を輝下
よと告本り

又差後官の季承漢ハ
我公假後を執るて
馳来り痛く高而を
高られよと促す小之れも
答へて言るや若一果後
等の相迫ら政府機を告ぐ
せられり相諾す季承漢ハ
しるを承知して立去る者
も亦く公假後の後承る小
高き山小朝鮮人の群集ありて
陸軍軍曹千原秀三郎 巡查官銅
大市を山小登せて見せしむるよ



真真

成山 三一等
迎查 小林

志津三郎

の友は、於て、今、放火する

暴徒を見も、憎き、彼奴の

あるまじりなり、お存て、果

怒取

ひと相

ひを付

て打



つすの如く、死

矢石を放

る叢

の如く、あめ、小山

岩、かしく、怪しむ、計りの

有、存あり、然、共、思、れ、ぬ、我、人々

業、於、縁、あ、さ、る、可、き、何、れ

も、玉、ち、ら、ぬ、の、又、後、を。

放せ

バ生

王新

たが

一、時、お、水、を、て、ん、た

り、ら、る、さ、れ、ど、も

暴、徒、ハ、多、ク、存、在

る、を、以、て、再、交

際、と、押、身、せ、奉、り

間、を、作、り、て、取、囲、み、余

す、ま、し、と、韓、玄、等、ハ、五、二、等、三、に、押、詰、奉、り

月

洋



矢倉

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

あ、ま、り、と、相、詰

る、が

城、を、共、ハ、セ

辨、ひ、お

恐、れ

ん

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△



軍備區々くしと決けせざるお柄がら花房公はなぶら公こう使しハ左ひだり右みぎをま

 去さりあぐらと老らうまれ玉たま城じやう子こ道みちれ

 一い又また謀まうるまあるへ一い法ほう君きん

 死しのこ急いそぐ可べからは是これす

 大おほ路ぢは付つて出でんと成なり山やま星ほしのあ

 氏うぢハ見まるまとあり千ち原はら小こ幡はたのあ

 氏うぢハ法ほう殿でんと定さだめ申まをし居ゐるに

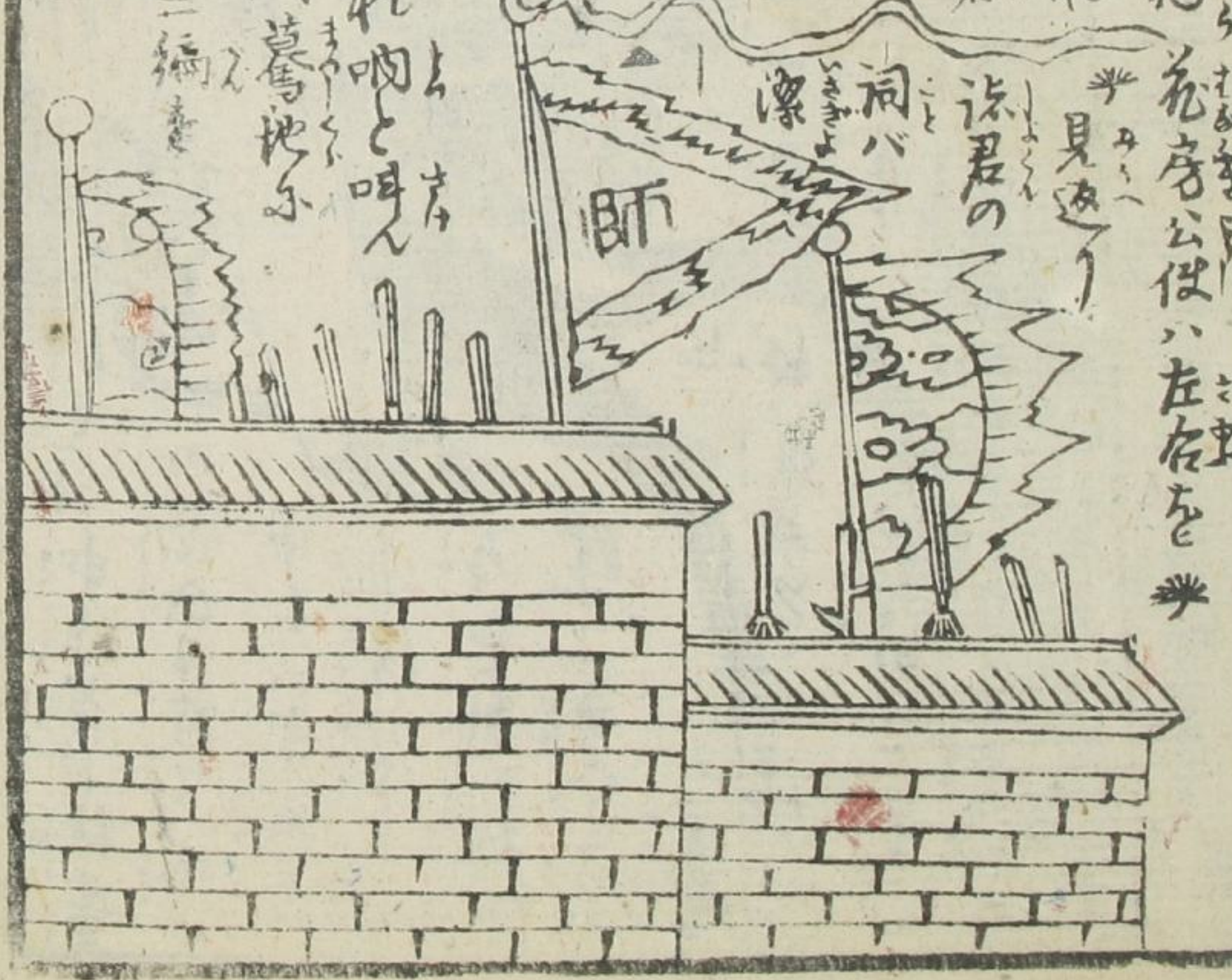
 火ひを公こう堂どうに放はなちりま

 面めんを付つて出でよとしこをあれめと叫こゑん

 で出でたりま現げん負ふ二十にじゅう八はち、暮ま暮も地ぢ

 割わりてい死し奮ふんをますは編へん織しハ二に編へん

 後ごをし知しりますべ



010190514507

